

なぜ、近年、アフリカの内戦で、軍事性暴力が多発したのか。誰もが抱く疑問である。しかし、その実態は正確には把握されておらず、答えを見つけてるのは難しい。とはいえ、研究蓄積がないわけではない。ここではハーバード大学准教授の研究を紹介しよう。

彼女は、武装集団ごとにレイプの発生率が異なる理由を、各種報告書や三千もの家族へのインタビューを通して分析した。彼女が取り上げた事例は、西アフリカのシエラレオネ内戦である。結論から言うと、さまざまな要因を統計的に処理した結果、内戦下のレイプを誘発する最大の要因

は、兵士がリクルートされる方法にあったという。つまり、兵士がリクルートされる際の強制力の大小が、レイプ発生件

## ⑧ 軍事性暴力と慰安婦(7)

# アフリカとわたし

富永智津子

補充が双方にとって重要課題となった。

その補充方法を調べてみると、反政府軍の兵士の七八%が誘拐によって

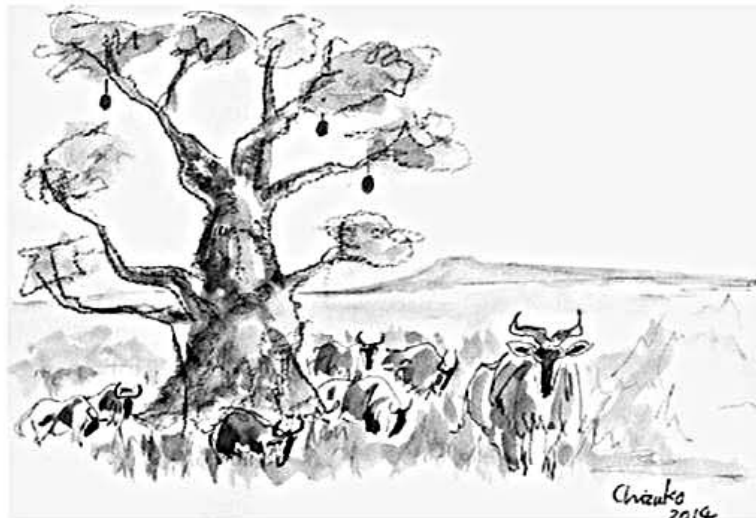
り、反政府軍のメンバー間には親和的關係が当初から欠落しており、そうしたバラバラな兵士を団結させるために最も効果

的なのが「集団レイプ」だったのだという。

一方、政府軍の兵士は、七八%が友人や親族や共同体のメンバーによってリクルートされており、それがレイプへの抑止力となったと見える。

程度差はあれ、軍事性暴力は、時空間を越えてどの武装集団にも見られることが、その証左である、私は思う。

(元宮城学院女子大学教授・イラストも)



数と最も高い相関關係を示したというのだ。

シエラレオネは反政府軍と政府軍との間で何年も内戦が続き、戦鬪力の

戦鬪集団に放り込まれていたことが判明したのだ。この数値は七年後の一九九八年になると九四%に達している。つま

レイプ被害者への聞き取り調査によれば、加害者の圧倒的多数が反政府軍の兵士によるものだったことも、この分析を裏

付けている。その他にも、国家機能の低下、反乱軍の密輸行為、ジェンダー間の不平等などがレイプの発生を下支えしている。